

## 第1回 伊勢湾漁業影響調査委員会 議事概要

1. 開催日時：平成26年3月19日 13:30～15:30
2. 場 所：TKP 名古屋ビジネスセンター8A号室
3. 出席委員（五十音順）

井上 徹教	(独) 港湾空港技術研究所 上席研究官
大関 芳沖	(独) 水産総合研究センター 中央水産研究所 資源管理研究センター長
古丸 明	三重大学 大学院生物資源学研究科 教授
鈴木 輝明	名城大学 大学院総合学術研究科 特任教授
中田 喜三郎	名城大学 大学院総合学術研究科 特任教授
中村 由行	横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 教授
前川 行幸	三重大学 大学院生物資源学研究科 特任教授
4. 主な審議内容
  - 1) 伊勢湾漁業影響調査委員会 設置要綱（案）について
  - 2) 委員長選出について
  - 3) 名古屋港新土砂処分場漁業影響調査 現地調査計画書（案）について
5. 議事概要
  - 1) 伊勢湾漁業影響調査委員会 設置要綱（案）について
    - ・ 事務局より、検討委員会の目的等についての説明がなされ、原案のとおり了承された。
  - 2) 委員長選出について
    - ・ 鈴木委員が委員長に選任された。
  - 3) 名古屋港新土砂処分場漁業影響調査 現地調査計画書（案）について
    - ・ 委員会において、名古屋港の新土砂処分場の候補地について、伊勢湾の生態系やそれに基づく様々な漁業への影響を評価するために必要な調査の内容について議論がされ了承された。ただし、今後、調査項目・内容について順応的に対応していく。

## 6. 議事

### 1) 名古屋港新土砂処分場漁業影響調査 現地調査計画書（案）について

#### <委員>

現地調査はいつまで実施することを考えているのか。

#### <事務局>

漁業及び漁業生物への影響を評価する上で信頼性が担保できるか、また、伊勢湾シミュレーターの再現性を確保するためのデータが得られているか、この2点を主眼におき、漁業者や委員会の意見等を聞きながら検討していく。

#### <委員>

伊勢湾内に設置されている自動観測ブイや各県が実施している調査結果は積極的に活用し、今回実施される調査結果と合わせて評価の材料に使っていくべき。それでも足りない部分がある場合は、今後の調査の内容について本委員会で検討すべき。

#### <事務局>

本業務に関連する他機関等の調査結果については、情報収集し整理して活用していくこととしている。

#### <委員>

伊勢湾シミュレーターを駆動させるにあたり、基本的な情報は全てこの現地調査の中に入っているという理解でよいか。

#### <事務局>

技術的な視点で検証し調査項目を決めているため、そのような理解でいる。

#### <委員>

藻場の観測について、葉上動物は調査項目にあるが、付着藻類が調査項目に無い。藻場の生態系の調査としては、その部分が足りないのではないか。

また、動物プランクトンについて、伊勢湾シミュレーターでは動物プランクトンは貧酸素時には死亡する設定になっているため、貧酸素化している部分の動物プランクトンも観測するようにしておかなくてはならないのではないか。

#### <事務局>

伊勢湾シミュレーターにおいて計算された結果と現地調査結果を確認し、調査の追加等について検討した上で、順応的に対応していく。

<専門員>

貝類の餌料環境を確認するため、名古屋港内にも動植物プランクトンの調査点を設けた方が望ましいのではないかと。

<事務局>

まずは名古屋港内のアサリ現存量を把握し、幼生の供給等について検討をする。その上で、さらにアサリの成長や肥満度等の情報が必要となった場合に、餌料環境の調査を検討していく。また、動植物プランクトンについて、名古屋港内で実施している他機関の調査結果について情報を収集していく。

<委員>

空港島周辺における底生生物、護岸生物等の生態系の機能を極力把握し、その機能が伊勢湾全体にどのような役割を担っているか意識して調査してほしい。

<委員>

中部国際空港西側の海域は漁業上、極めて重要な地点であるため、調査点の配置については適応的かつ柔軟に考えてほしい。

<委員>

中部国際空港は環境に配慮した形状になっている。その形状が変わった場合、生態系がどのように変化するかを意識し、調査点の配置も順応的に検討していくということをお願いしたい。

<委員>

空港島護岸周辺の生態系の構造や物質循環の円滑さに関わる調査結果は、委員へ極力早く情報提供していただき、意見を伺うようにしてほしい。

<専門員>

ノリ漁場の定点調査について、空港島の西側に新土砂処分場を配置した場合、木曾三川の河川水が知多半島の西岸の先端の方へ届かなくなってしまう可能性がある。その影響を見るため、野間から内海にかけて調査定点が必要ではないかと。

<事務局>

今後の調査結果及び伊勢湾シミュレーターによる再現結果を確認しながら、必要性について検討していく。

<委員>

調査測点の追加や場所の変更については、極力充実した調査にしていくため、委員、専門員等と意思疎通を取りながら検討していく必要がある。

<委員>

今回は一連の調査で膨大なデータが出てくる。その中で評価や解析に関わる重要な部分については、節目節目で委員、専門員に示し考え方を聞きながら、無駄の無いように進めてほしい。

<専門員>

空港島西側のかけ上がり部分は、その地形の特長を活かした漁業操業をしていると聞いたことがある。そのような漁業操業実態も記録していただきたい。

<委員>

空港島西側のかけ上がり部分を漁業者がどのように利用して操業しているか、そのようなことも加味した影響評価をすべき。

<事務局>

調査を進める中で、漁業者とコミュニケーションを取りながら情報を収集し、報告していく。

<委員>

中部国際空港の西側の海域がどのような漁業に利用されていて、海域がどのような状態になっているのか、漁業の操業方法を含めて情報を早めに提示して頂きたい。